

第6回 交通ソフトインフラ 海外展開支援協議会（JAST）： インドネシアにおける実証事業の成果報告

LocationMind (株)
(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル

2026-03-12





1. 共同提案体の紹介

2. 活動概要・成果報告



LOCATIONMind

LocationMind (LM)

東京大学からスピノフした
位置情報AIベンチャー企業



OC GLOBAL

オリエンタルコンサルタンツ グローバル (OCG)

持続可能な開発に貢献する
開発コンサルティング企業

日本及び海外におけるAI・空間情報に係る
専門的・学術的知見

ASEAN諸国やその他開発途上国における
交通・モビリティ分野の専門的知見



UNIVERSITAS
INDONESIA
Veritas, Probitas, Justitia | Est. 1849

共創パートナー：インドネシア大学 (UI)

専門知見と現地ネットワークを有する
インドネシアを代表する学術・研究機関

概要 : LocationMind

会社概要

会社名 LocationMind Inc.
設立 2019年2月
従業員数 83名
資金調達 総額:49億円
円(シリーズB)



代表取締役 桐谷 直樹

大学発スタートアップ



CTO 柴崎亮介

主な顧客



空間情報AI

人間の活動・移動分析、人流分析SaaS



位置情報セキュリティ

人工衛星を利用した位置情報セキュリティ



概要：オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCG）



世界中の持続可能な開発における
専門的な知見と経験を有する1957年に設立された
グローバル・エンジニアリング・コンサルティング企業
(開発コンサルタント)

OCGのグローバルネットワーク



ジャカルタMRT第1期（インドネシア、2019年開業）



ジャカルタ都市圏交通マスタープラン等
(2009-2013年、2017-2019年、2022-2025年)

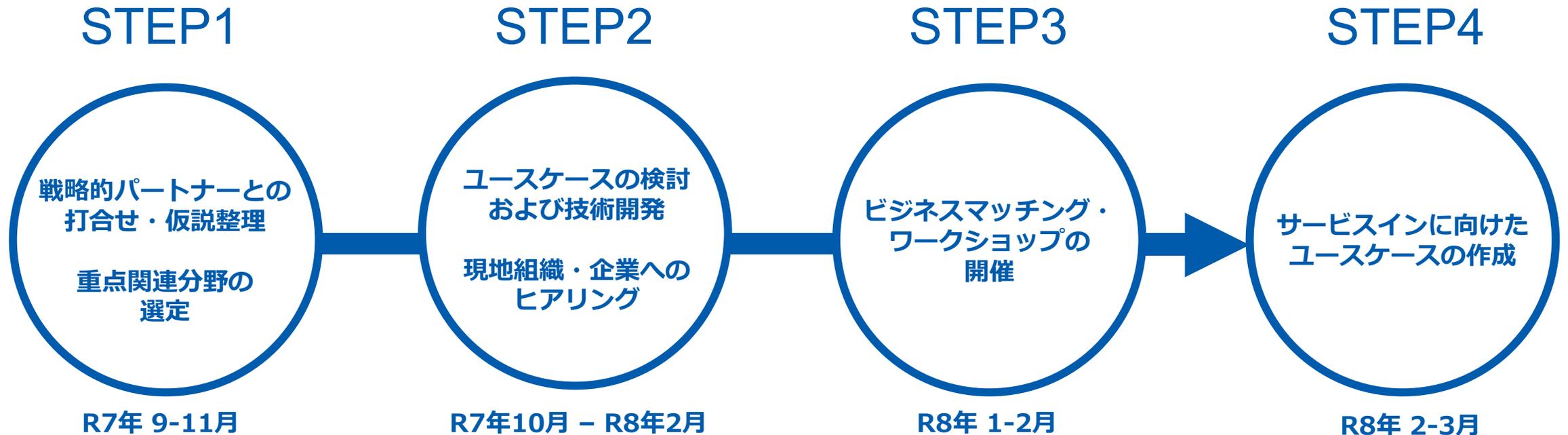


インドネシア初の自動運転車両の実証実験（2022年実施）



本共同提案体が有する位置情報ビッグデータ解析・AI技術を活用した「スマート・モビリティ・プランニングツール(SMPT)」のASEAN各国への事業展開を目指す

- ・ **インドネシア・ジャカルタ都市圏におけるケーススタディ調査（技術実証）を推進**
- ・ **潜在ニーズの高いユースケースの作成・ビジネスモデルの検討**に向けた現地協議を実施

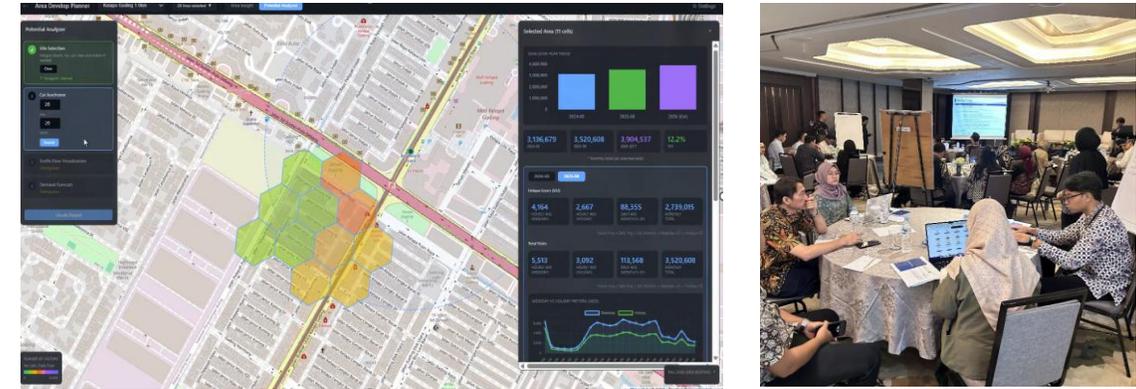


昨年度業務を踏まえた今年度業務の方針と主な成果

昨年度業務：デジタル技術による公共交通利用促進に係る調査検討



今年度業務：複数のユースケースにおけるプロトタイプ開発



取り組み内容

- **ヒアリング調査：**自治体・交通事業者等
- **データ調達：**Telkomsel社のCDRデータ
- **プロトタイプ開発：**公共交通ユースケース
- **現地ワークショップの開催**

有識者からのコメント

- **石田先生：**データだけでなく、現地ステークホルダーや既存の専門家知見とどう接続するかが重要。アナログな関係性との融合設計が鍵。
- **中村先生：**1つだけでなく複数データを統合しつつ、日本の強みであるデータ品質を前面に出し、交通事故の削減などの課題解決に結び付けるべき。

1

官民を跨るセクター別の課題把握を進めるとともに、優先順位の高いユースケースの在り方を検討

2

昨年度の公共交通プロトタイプを基盤に、TOD・都市開発と交通計画向けプロトタイプを開発

3

現地ニーズの高いTOD・都市開発をはじめとして、官民の共創を促す協働プロセスのコンセプトを整理

4

現地大学等との共同研究・開発に向けた体制構築（インドネシア大学との3者MOUの締結）

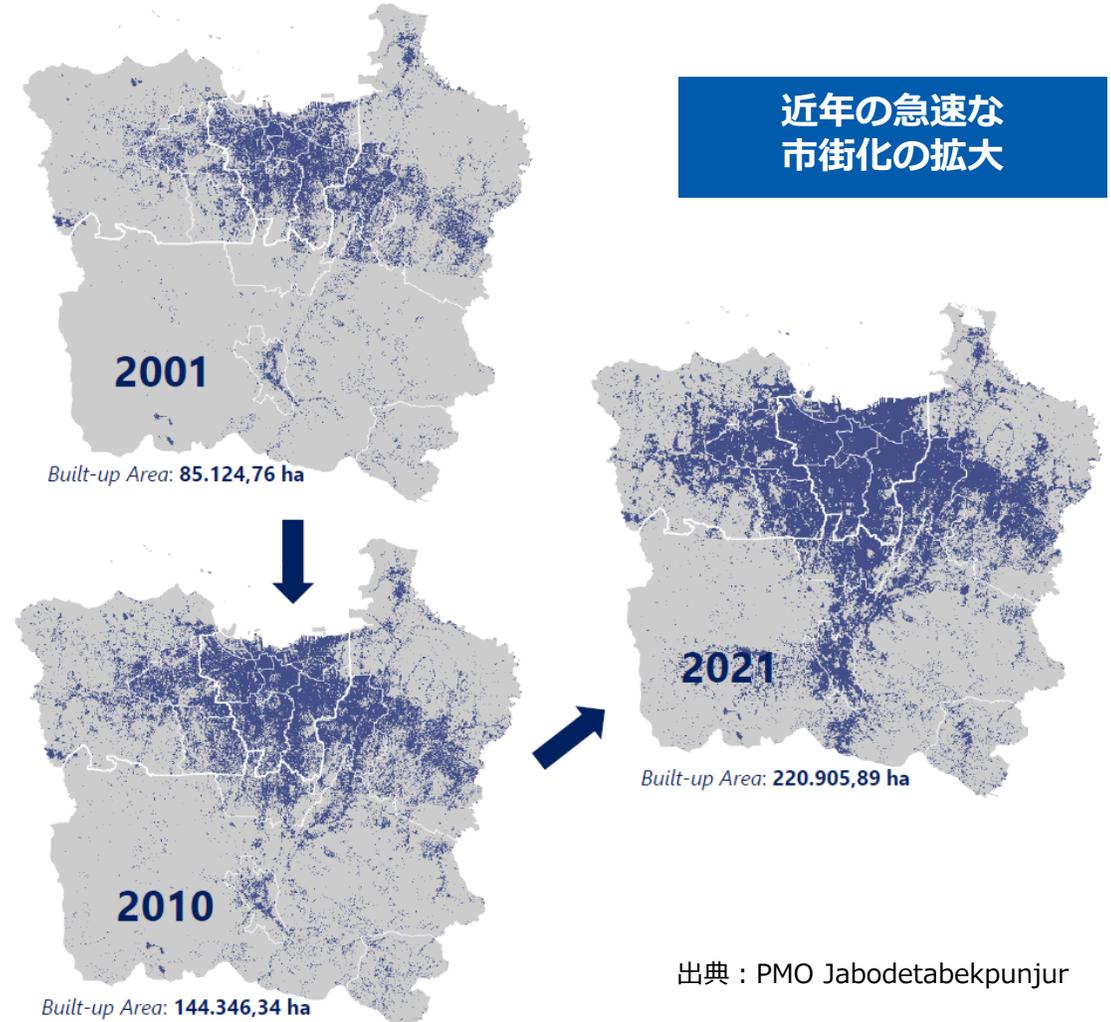
STEP1: インドネシア ジャカルタ都市圏の概要

ジャカルタと新首都の位置



出典：外務省

近年の急速な市街化の拡大



出典：PMO Jabodetabekpunjur

都市圏人口：3,176万人（2022）
-> 拡大後：約4,200万人（2025: UN）
※東京都市圏（参考）：約3,340万人

STEP1: インドネシア ジャカルタ都市圏の概要

着目する都市・交通課題

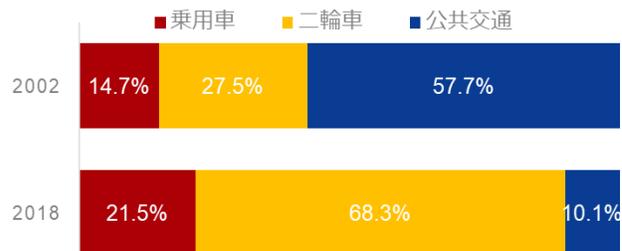
モータリゼーションの進行
(交通渋滞・事故リスク増大)

インフラ整備の進展後の次段階
(運営・需要管理上の課題)

都市の空間的分散・接続性不足
(回遊性の弱さ・拠点整備不足)

セクター間の連携不足
(計画・運営・民間の分断)

交通分担率の急速な変化



出典：JUTPI Phase-3



ポテンシャル

持続可能なモビリティに向けた
公共交通の段階的な整備

データに基づく需要管理・
インフラの質的改善への移行

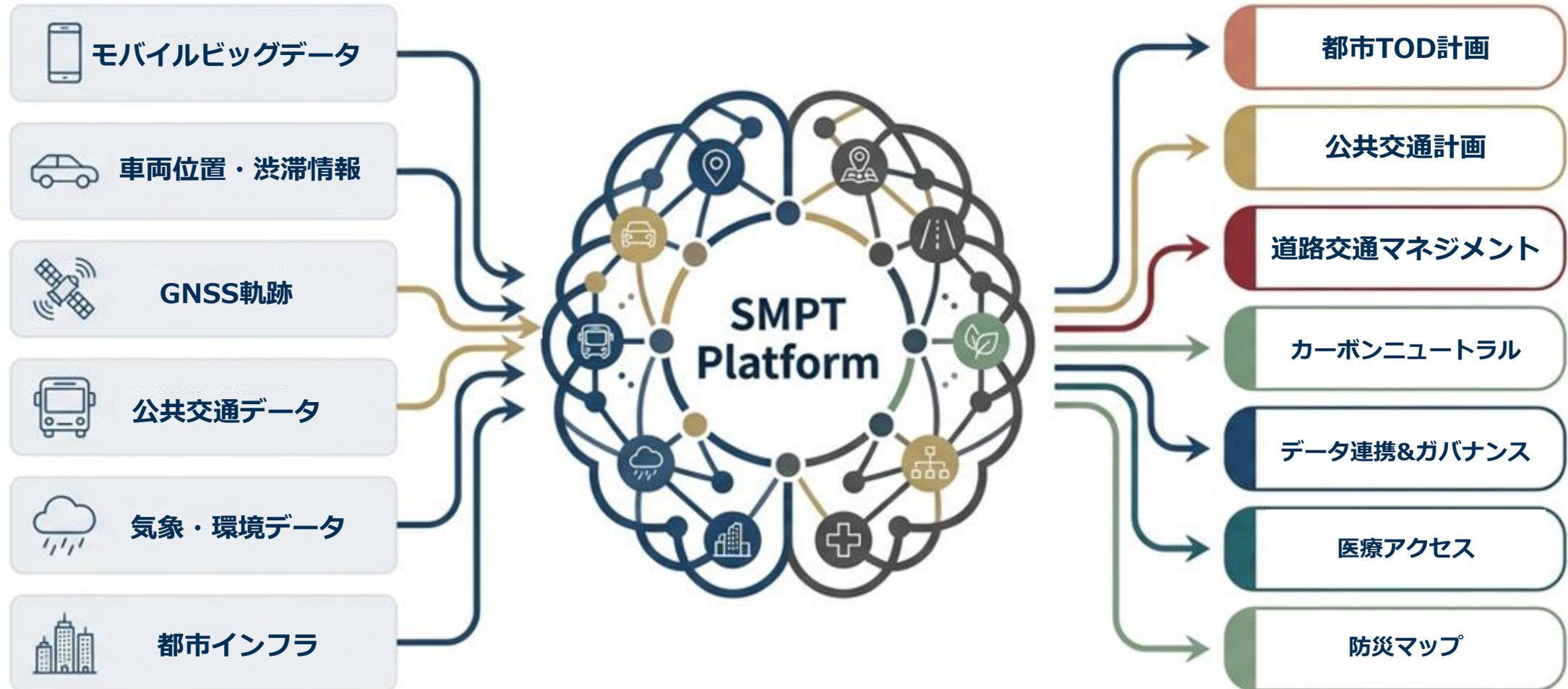
TODの主流化に向けた模索
交通機能強化・回遊促進二一ズ

官民間の共創型マネジメントへの
段階的な転換可能性



STEP1: SMPTプラットフォームのコンセプト

多様なデータを1つに統合し、人々の日常生活をより豊かにする基盤となり、分野横断的な価値創出を目指す



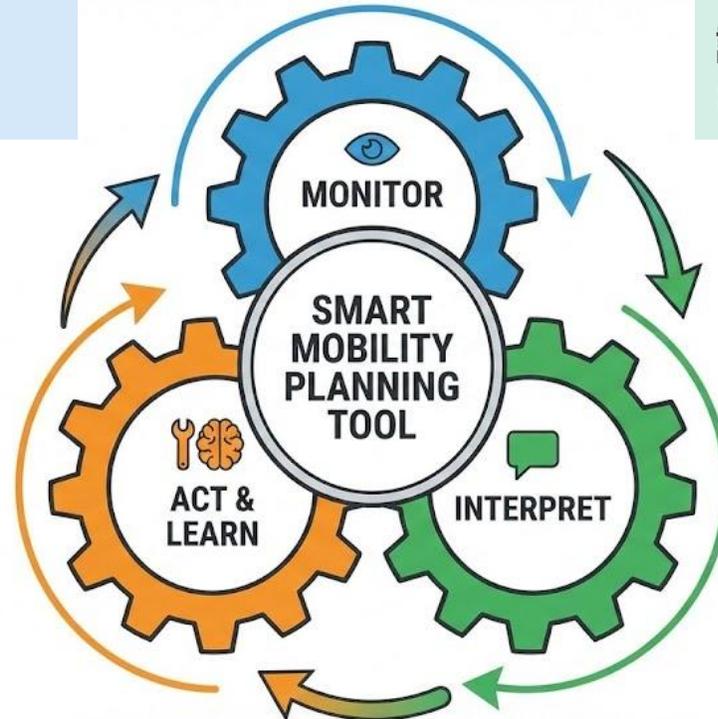
STEP1: SMPTが提案する価値共創サイクル

[Monitor : まちの特性・傾向を把握]

移動・滞在、交通利用・空間利用等の多様なデータを統合・可視化

[Interpret : まちの経験を読み解く]

訪問者・利用者のインプレッション等をLLMにより解析し、まちの体験価値を把握



都市における多様な主体を橋渡しする触媒（Catalyst）を目指す

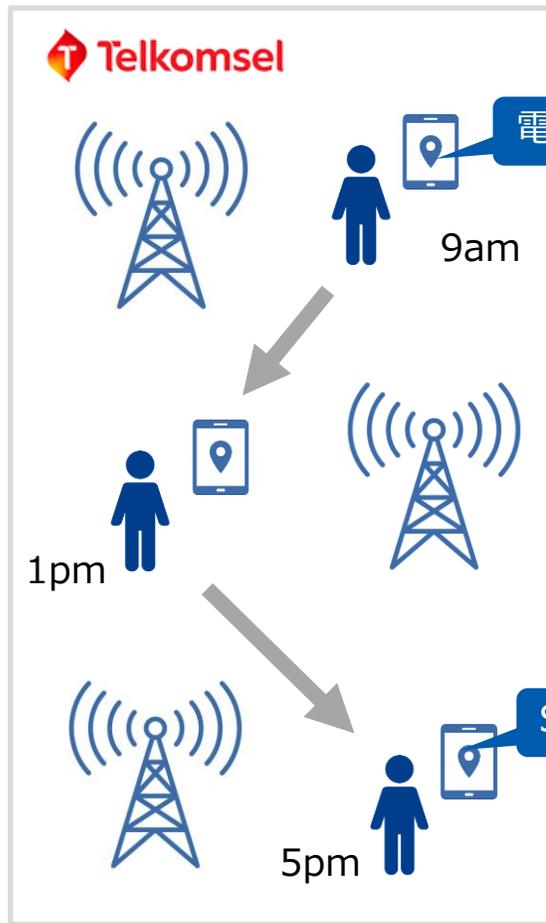
[Act & Learn : 施策・アクションを検証し、共に学ぶ]

具体的な施策により期待される効果をシミュレーション
トライアルによる実際のまちの変化を検証

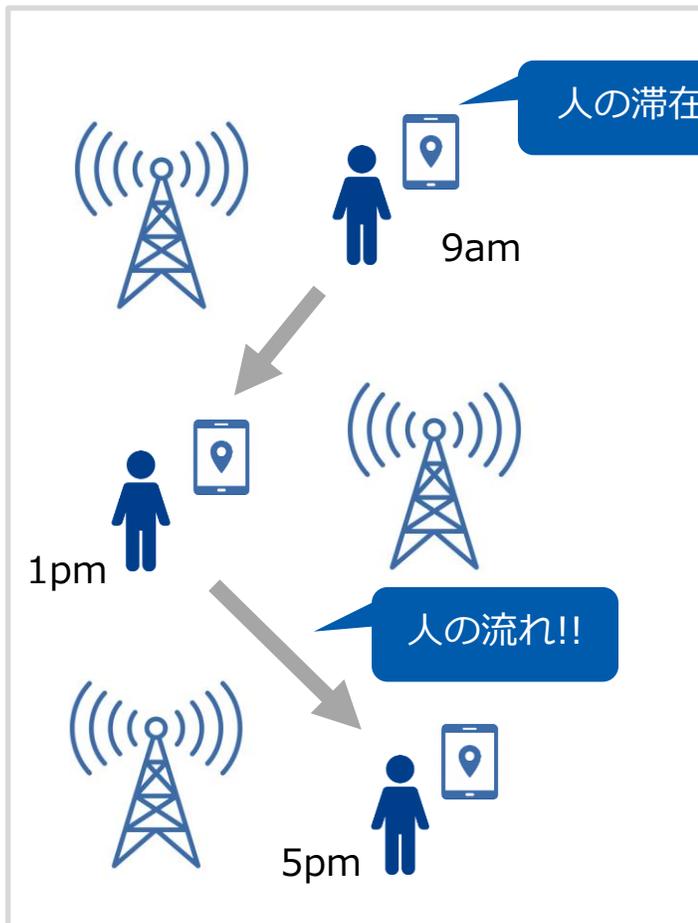
STEP2: プロトタイプツールの開発

現地最大の携帯電話事業者（Telkomsel）から人流データを調達し、ヒアリングの結果、ニーズの高かった「都市開発・TOD推進」と「交通計画 / MM」のモックアップを開発

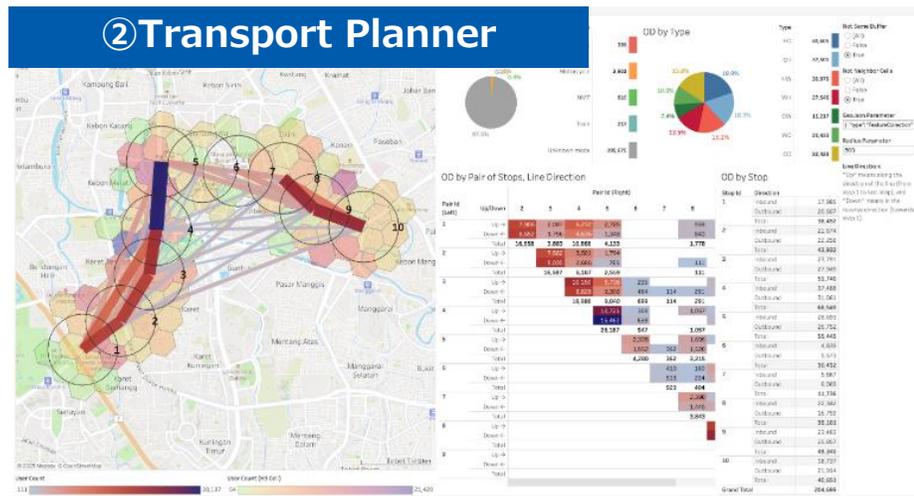
人流データ



データ処理・可視化



プロトタイプ開発



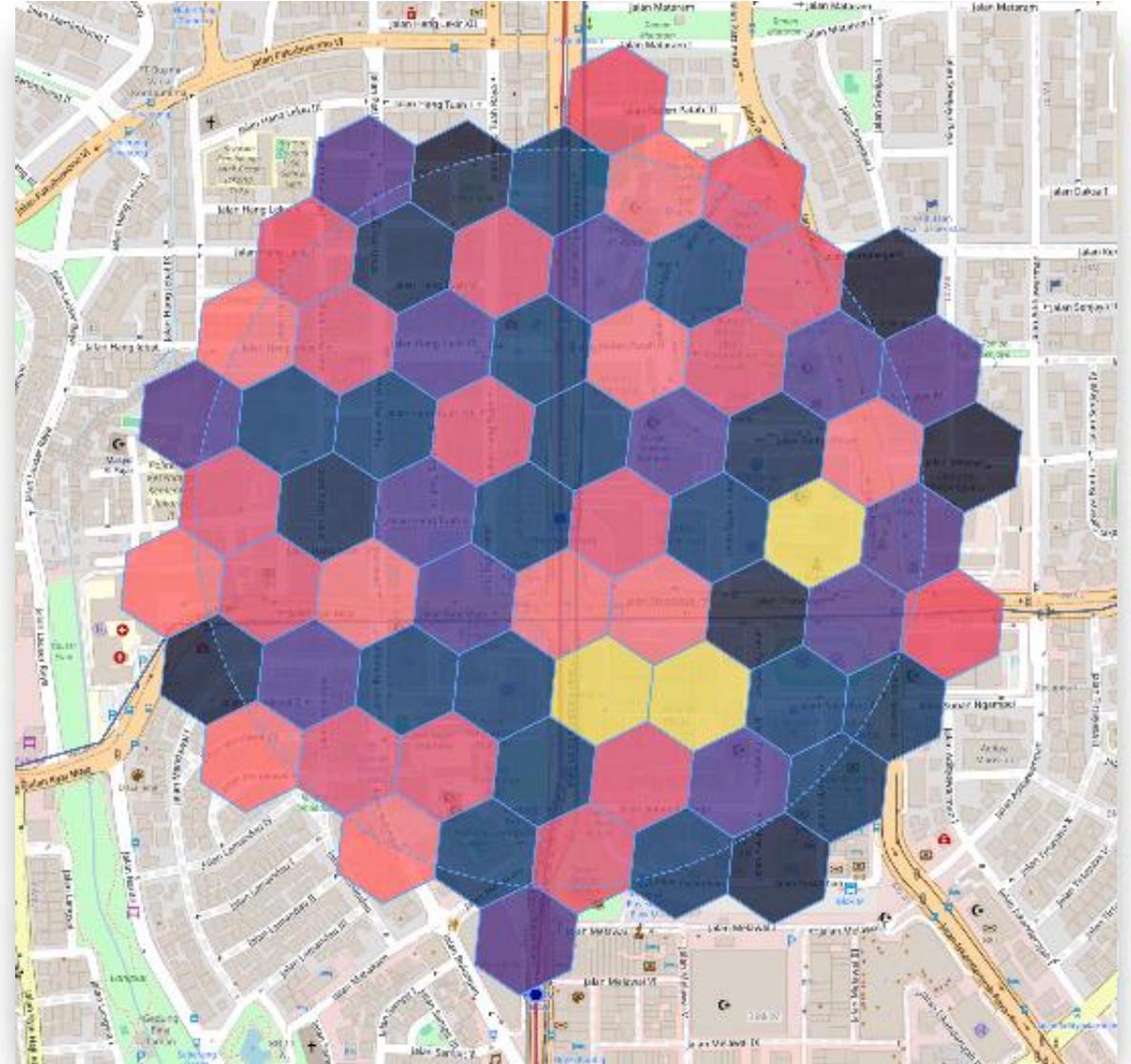
STEP 2 : プロトタイプ① Urban & TOD Planner

基本ロジック

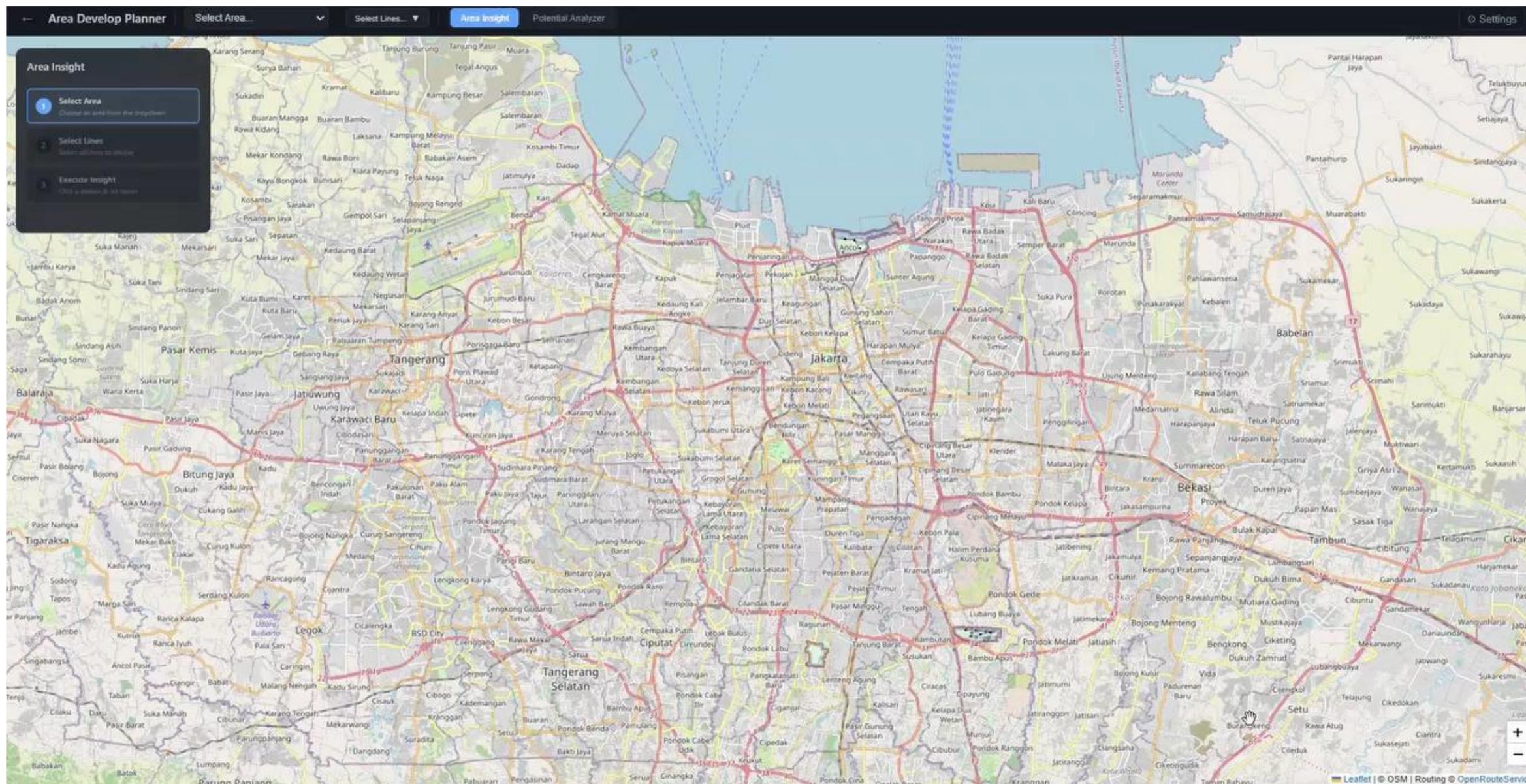
- 単位: 1時間単位 / 一辺70m程度の6角形単位
- 指標: 延べ滞留人数・ユニーク人数

ユースケース: 「若者向けカフェの出店場所を決めたい」

属性データ (年代・SES) と滞留時間を掛け合わせ、ターゲット層が最も長く滞在するグリッドを特定する。



STEP 2 : 技術開発 (プロトタイプの開発)

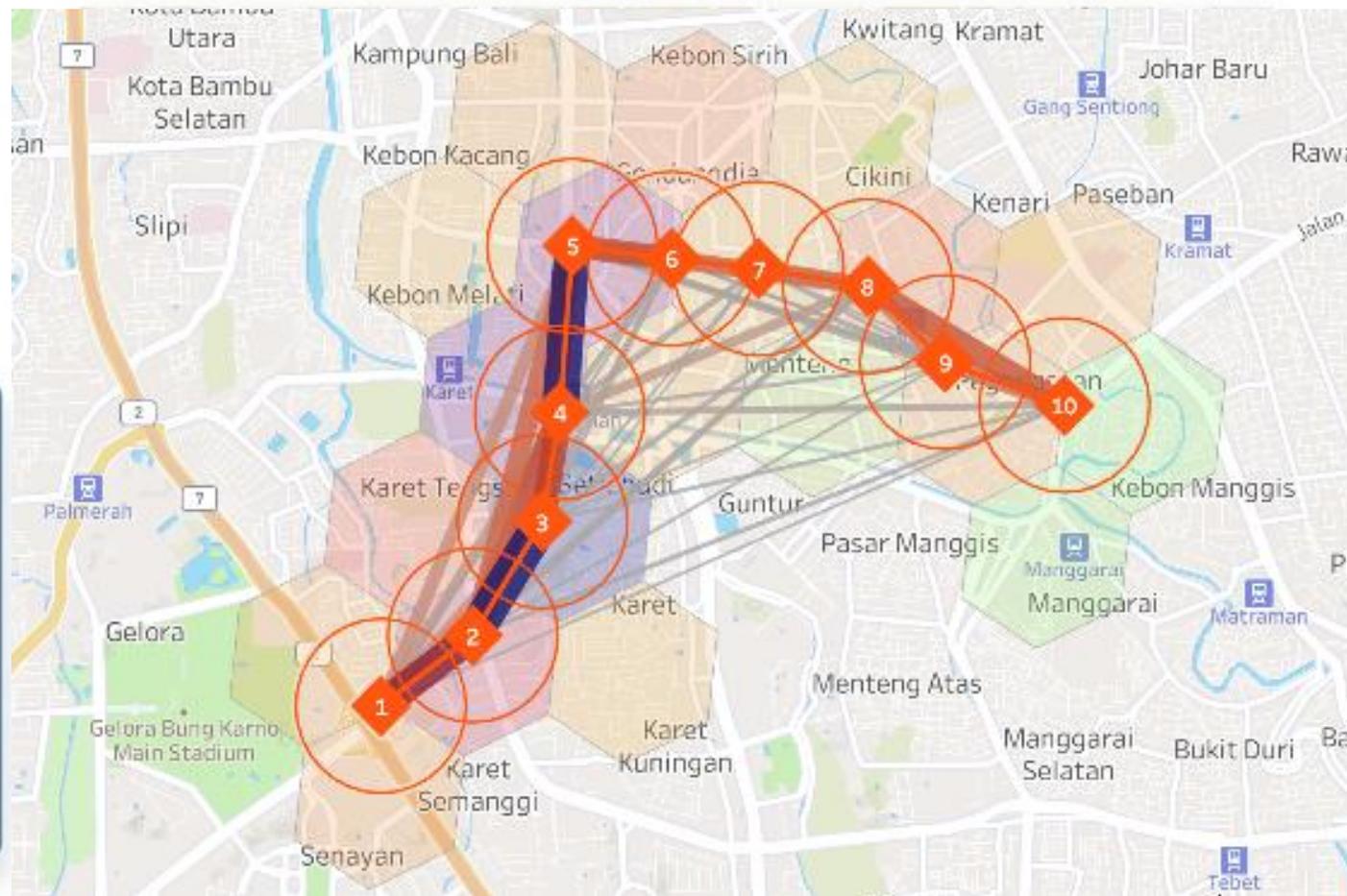


基本ロジック

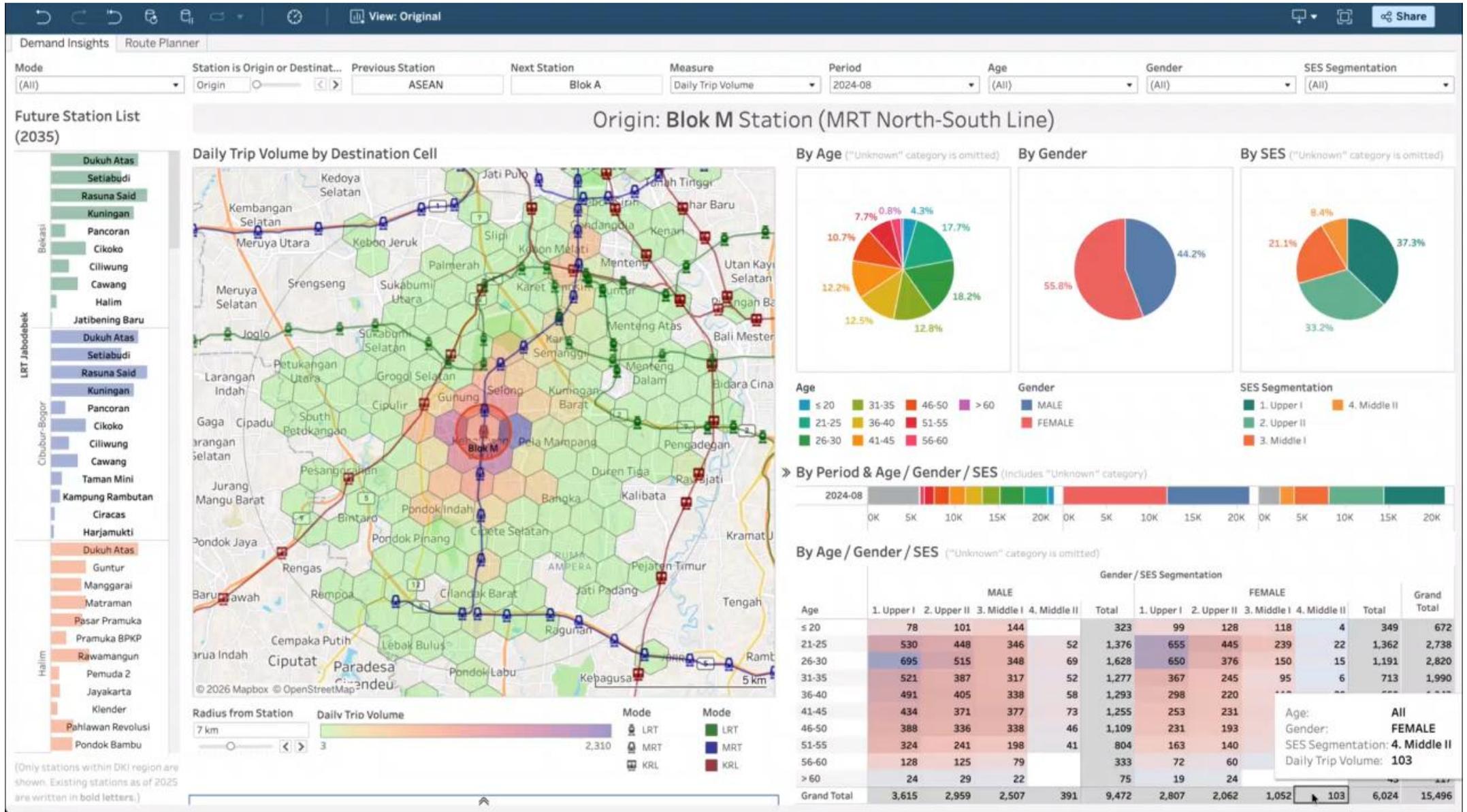
- 単位: 1ヶ月単位 / 一辺200m程度の6角形単位
- 指標: トリップ数 (Trip Count) / OD Flow

**ユースケース: 「女性が利用しやすい
バス路線を引いてみたい」**

性別ごとの移動需要 (OD) と既存の供給 (バス路線) のギャップを可視化し、潜在需要の高いルートを特定する。



STEP 2 : 技術開発 (プロトタイプの開発)



STEP3: 現地ワークショップの開催

Smart Mobility Planning Workshop for Partnership Development

2026年1月27日 9:00-12:30 @ジャカルタ (Ashley Tanah Abang)

主催：LM/OCG共同提案体・インドネシア大学（工学部）

- 公共・民間セクターから計43名が参加 -

官学民をまたいだグループワークと個別対話を通じ、
次の連携・共創の可能性を探るビジネスワークショップ



ビッグデータの
可視化と共有

フィードバックを通じた
気づき・関心の対話

共創・連携に向けた
可能性の具体化



STEP3:現地ワークショップ : グループワークの様子

Group: Blok M/Senayan 1



Group: Blok M/Senayan 2



Group: Menteng/Setiabudi 1



Group: Menteng/Setiabudi 2



Group: Serpong/BSD City



Group: Kelapa Gading



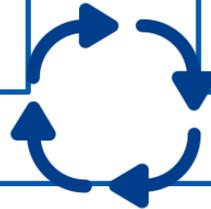
公共部門向け： エビデンスに基づく都市ガバナンス

- 基礎データとしての活用
- 都市・交通政策の妥当性検証・効果の継続的モニタリング
- 官民調整の高度化・共創促進



交通事業者: データ駆動型 モビリティ・TODエリアマネジメント

- 公共交通の計画・運行モニタリング
- TODエリアポテンシャルの最大化
- 非運賃収益（商業・広告・不動産）の最適化と拡張
- データに基づく官民調整・共創促進



民間開発・商業・投資家向け： データに基づくビジネス展開・意思決定

- 開発エリアにおける市場・商圈分析と競争優位性分析
- エリア・施設の顧客分析・回遊の可視化とモニタリング
- 顧客満足度向上のための仮説検証とモニタリング



データの信頼性と活用能力の不足が
ボトルネックとして想定されるとのコメント多数

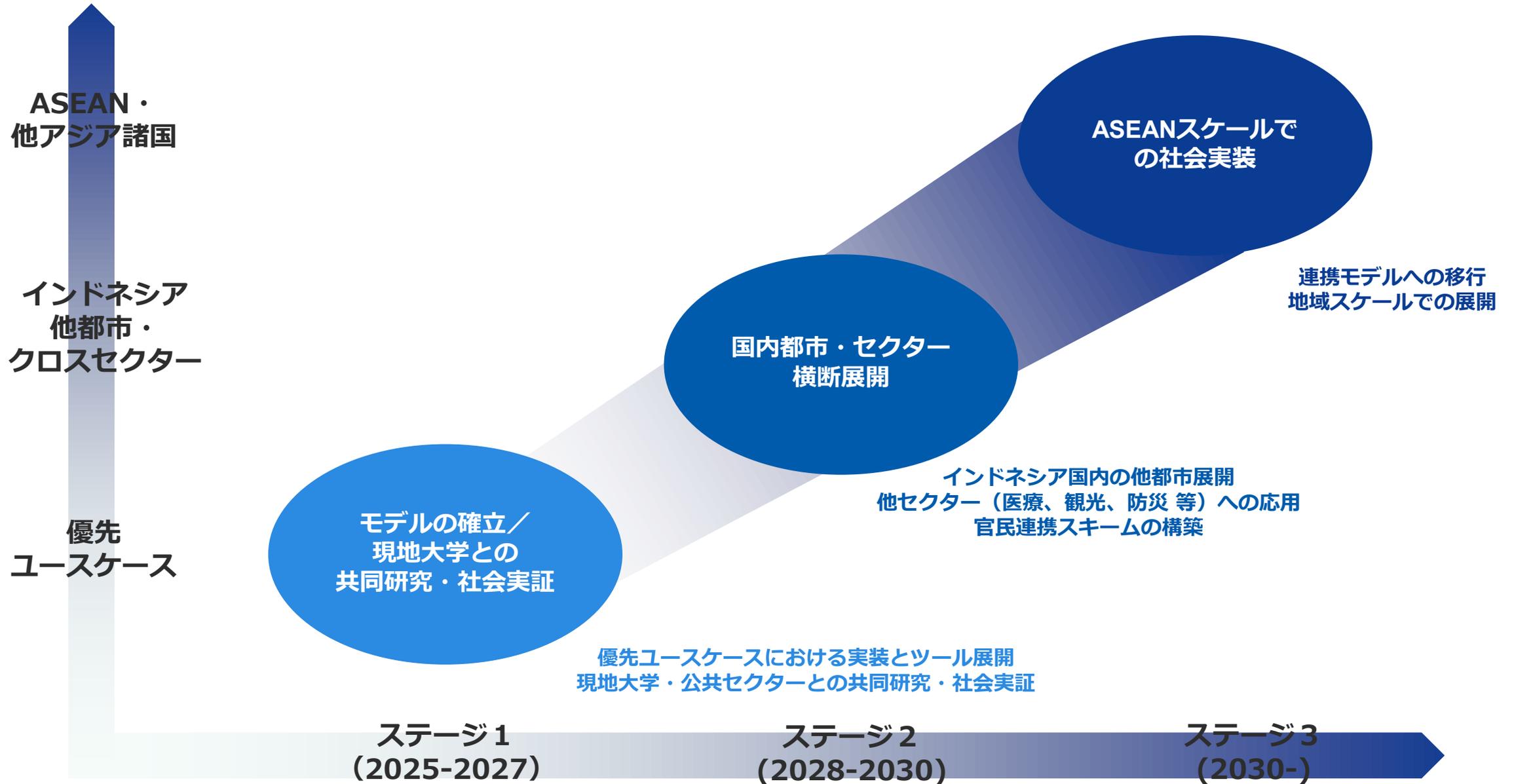
現地大学・データプロバイダー等との連携を図り、
データ精度の改善×ツールのローカライズを図る

STEP4: インドネシア大学との3者MOUの締結



インドネシアにおける
ビッグデータにかかる共同研究・開発を推進

STEP4: ビジネスロードマップ



現地の共創パートナーとともに、現地課題の解決とともに
持続的なビジネス・エコシステムの構築を目指す



データプロバイダー



エンドユーザー

Design the future of people's mobility together!